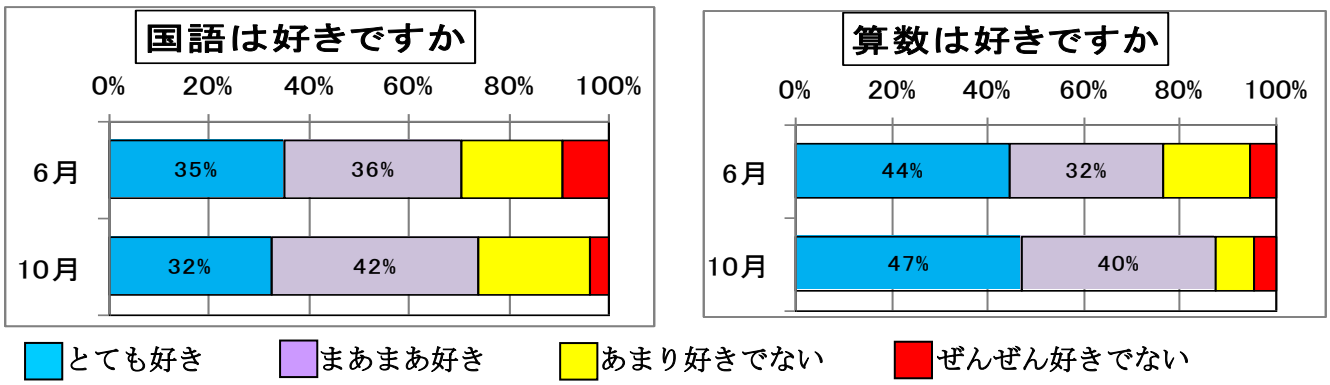
＜アンケート結果＞



＜成果＞

○確かな学力をつけるために，従来の問題解決型の授業展開にこだわらず，問題解決場面で，「理解する」と「考える」を，適用題では，「定着・習得する」「活用・応用する」のどちらに重点を置くべきかを考えて授業をしたことが，わかりやすい授業につながった。

○適用題までを１時限の中に組み入れたことにより，教師も児童も授業内容が理解できたかどうかを確認することができた。さらに，その後の個別指導にもつなげることができた。

○既習事項の提示や教室掲示，資料や板書での見える化が，問題解決の手がかりになり，思考を深めたり理解の手助けになったりした。

○国語では読み取る方法や読み取ったことを伝える方法が，また，算数では解決方法や解決手順を説明する方法がパターン化され，説明できるようになってきたことで，児童が意欲的に活動する姿が見られるようになった。

○生徒指導の３つの視点を活かした授業展開は，児童の発表への自信と意欲づけ，そして，お互いを認め合うことから自己有用感につながっていった。教師側も，児童一人一人のことを考えた指導をするように意識して取り組むことができた。

＜課題＞

▲問題解決の焦点化を図り，適用題の時間をしっかり確保しなければならない。特に国語では，適用題の内容を吟味し，よりねらいに合った問題にすることが必要である。

▲算数では問題を読み取る力が，国語では課題に対して自分なりに考える力がやや弱い。また考えや説明を簡潔にまとめたり記述したりすることについても不十分である。

▲理解が遅い児童へのヒントや支援の仕方等をさらに考えていかなければならない。

＜今後に向けて＞

◇教材研究の充実により，ねらい達成のための課題とまとめ，解決方法の吟味，適用題の充実を図る。

◇文章を読むために読書や音読の推進，文章を読み取るために，図で表してイメージ化を図るような細かな指導をしていく。

◇考えや説明を簡潔にまとめたり記述する活動を授業内外で取り組む。

◇授業内での理解が遅い児童へのヒントや支援，授業外での個別指導の充実を図る。